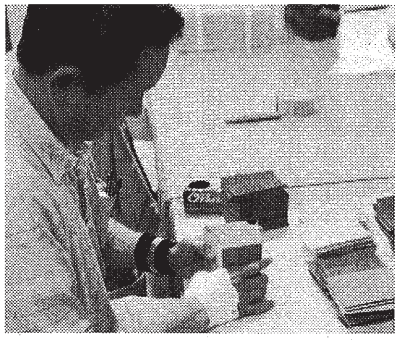
ジェイハンズ ④

モノづくり モノがたり

企業、時代、ECストーリー



ジェイハンズの倉庫で

内職たちの技術。手仕事の強みに気づく

機械に負けないきれいな商品が強みだ

ジェイハンズの商品をつくっている人たちは京都府綾部市に住む内職さんたちだ。

現社長の山口雅也氏はいう。「プレミアムグッズを販売している間も、これまで販売してきた工芸品はつくり続けていました。プレミアムグッズで使われる商品は、機械でつくった寸分違わぬ規格品。反対に、手づくりは不安定で揺らぎのある製品。手づくりより、大量にきれいにできるほうがいいのかなと思った時期があったのも事実です。しかし、毎月欠かさず手づくり商品を注文してくれるお客さまもいましたし、内職先を回って品質管理に余念のない社員たちがいた。だからこそ、規格品にはない味わいや、機械に負けないきれいな商品をつくり続けることができていました。自分たちの仕事を見つめ直すまで、きれいな商品ができあがることが当たり前に思っていましたが、この環境と蓄積はどこでもできることではない。これこそがジェイハンズの強みだと気がついたんです」

自分たちの仕事を見つめ直した雅也氏は、自社商品への愛情に火が付いた。

気になる他社製品を購入し、解体して研究を始めた。みやげ物には紙の折り方、型紙のつくり方など独自の知恵がたくさん詰まっているという。父の宗晃氏のように、雅也氏も自らの手でサンプルをつくり、商品を開発する日々が始まった。しかし、経済の閉そく感も続いていた。その時代のムードは旅行者のみやげ物への意識まで変えていった。

手仕事が続く

「昔は旅行に行くと、たくさんのおみやげ物を友人や家族に買ったものでした。しかしこのころになると同僚や友人たちへは日持ちするお菓子を買い、自分へのみやげを少し買うというスタイルが顕著になってきました」。昔のようにみやげ物が売れない時代になっていた。

そんな時、ネットによる販売に商機を見つけていた地元の先輩が声をかけてくれた。

「山口さんのところは商品もたくさんあるし、ネットで販売してみたらどう？」

寝具店アステ（本社京都市）の大東利幸氏がネットでの販売をアドバイスしてくれた。

2003年に、あぶらとり紙、ふくさ、ちりめん文庫箱、風呂敷、レターセットなどの商品で楽天市場に出店することになった。「まあ、あかんかったらやめたらいいか」。そんな軽い気持ちだった。（次号につづく）

会社プロフィール…1963年に京都府綾部市で創業。現本社所在地は京都市下京区。社員数6人。創業時は京都みやげ中心の商品ラインナップだったが、跡を継いだ三代目・雅也氏の代になり、和のデザインを生かしたノベルティグッズ企画やネットショップ運営に力を入れる。楽天市場、ヤフーに〈京都　洛〉を出店中。「ちりめん」などの布を使った「貼り物」と呼ばれる工芸品の仕上がりの丁寧さや完成度は業界で有名。